

次代の露地野菜産地を支える新規就農者の育成

(新規就農者向け「篤農家」の経営ノウハウ」継承プロジェクト)

目的

管内を代表する基幹的露地野菜（7～10月：夏秋ナス、10～6月：ブロッコリー及びレタス）は、生産者の高齢化や農業資材の高騰により経営環境は厳しくなっている。

そこで、これら基幹的露地野菜における、地域の実情に合った省力化やコスト低減を図る栽培技術により、安定生産及び所得確保を実現する周年栽培体系を確立・普及する。また、地域農業を担う中心的経営体（認定農業者、農業法人等）を支援しながら、新規就農者の参入・定着を促進し、次代の露地野菜産地の維持・発展に資する。

課題と課題解決に向けて

対象者：中心的経営体・新規就農者

技術的
課題

- (1) 夏秋ナス防除作業の省力化
内 容：IPM（土着天敵活用等）の推進
連携先：JA、資源環境研究課
- (2) ブロッコリー・レタスの土壤病害対策
内 容：IPM（輪作体系）の推進
連携先：JA
- (3) 土づくり対策
内 容：①気候変動に強い植物体づくりを目指した堆肥（牛糞等）の活用
②土づくりによる効率的な肥効確保による減肥栽培とコスト低減
連携先：市、JA、資源環境研究課、農産園芸研究課
- (4) データ駆動型農業の推進
内 容：夏秋ナスの気候変動（酷暑）に対処した安定生産技術の確立
連携先：市、JA、テラスマイル(株)

対象者：新規就農者・（3）②のみ農業法人等

経営的
課題

- (1) 雇用就農・研修の促進
内 容：中心的経営体への雇用就農・研修の支援（就農希望者の技術・経営力の向上）
連携先：中心的経営体、JA、資源環境研究課
- (2) 中心的経営体モデルの「経営指標」提示、経営向上セミナー
内 容：中心的経営体の「栽培・経営モデル指標」を作成し新規就農者へ提示、中心的経営体による経営向上セミナー
連携先：中心的経営体、経営研究課
- (3) 初期投資軽減対策
内 容：①県単事業等の特別枠の創設（例：支柱等の生産資材購入、防除ロボットの導入等）
②農業支援サービスのシステム構築及び共同利用施設整備
連携先：万代庁舎関係各課、市、JA、農業法人

目指すべき姿

基幹的露地野菜により安定した所得を確保する新規就農者が定着し、産地の維持・発展が図られる。
<成果指標>
・新規就農者 延べ30名

【参考】
管内の現状
(R4)

品目	栽培面積	出荷量 (系統)	反収	生産戸数
レタス	147ha	3,020t	2.7t	161戸
ブロッコリー	400ha	3,911t	1.2t	723戸
夏秋ナス	28ha	2,334t	9t	352戸